

自分や友だちのよさを認め合い、 できるだけ主体的に生活を楽しむ クラスをめざして

～大好きな音楽を生かしたクラスづくり～

鹿田 祐子

はじめに

中学部 1年は、本校小学部から連絡入学してきた 3名と他の小学校・養護学校から入学してきた 3名の計 6名（男子 2名、女子 4名）からなるクラスである。

入学当初様子を観察していると、学習中はそれぞれの活動にかなり意欲をみせるが、休憩時間になると「好きな事をしていいよ」と声かけしても、教室で机に着いていることが多かった。

しかし、いろいろな活動を重ね、次第に慣れ、打ち解けていくうちに、音楽の時間だけでなく、休憩時間にオルガンを弾いたり誘いあって一緒に歌をうたったりする姿が自然と見られるようになった。

そこで、生徒たちが大好きな音楽をあらゆる機会に生かしてクラスづくりをしていきたいと考え取り組んできた。

1 クラスの実態

生徒の障害としては、水頭症・ダウン症・プラダーウィリィー症候群などであり、重積するてんかん発作のある生徒もいる。

小学部から連絡入学してきた 3名（うち 2名は 6年時に転入）は、一つひとつの活動に対してかなり声かけや援助を要する。また、自分の思いを表現するのにも時間やいくつかの選択肢を必要とする。他校から入学してきた 3名については、それぞれ様々な課題を抱えているものの、提示された活動に対して積極的に取り組もうとしたり友だちや下級生の世話をしようとしたりする。そして、自分なりの思いを表現することもほぼできる。

6名とも友だちと関わることを好み、音楽が大好きな明るい雰囲気を持ったクラスである。ただ、受身的であったり、言葉によるやりとりが不十分だったり、まだまだ自己中心的で他者の考えがなかなか受け入れられなかったりすることもあり、トラブルになることも多い。

自分づくりの段階からみても自我の拡大・充実期の S 男、自制心の芽生え～形成期の K 子・K 男・S 子・N 子、自己客観視の芽生えの時期の M 子と個人差が大きい。

2 取り組みの方針

- ・全員が好きな音楽を生活・学習のあらゆる場面に活用し、クラスづくりに生かしていく。
- ・繰り返す中から生徒なりの主体的な活動を引き出し、それを認め生かしていく。
- ・一人から出てきたものをクラス全体のものとして拡げ、活用していく。

- ・好きなことを十分し切り、またそれが認められることによって満足感・充実感・達成感を味わうという経験をできるだけ積めるようにする。

(自分のよさを認める・認められる→友だちのよさを認める・考えを受け入れる)

— 中学部1年にとっての音楽のよさ —

- ・それ自体が楽しい。
- ・生徒たちの好きな活動である。特にリーダーシップをとれそうなM子の得意分野である。
- ・友だちと一緒にする楽しさがある。
- ・人の前で自分を出したり、それを認められたりする喜びがある。
- ・体調保持が一番の課題のS男にとっても、リラックスできる好きなものである。

3 実践事例

(1) 1学期の実践

音楽をクラスづくりに生かしていきたいと思わせたのはM子である。

中学部では、月の歌が音楽科の担当から提示され、朝の会等で各クラスが歌っているが4月当初、まだ月の歌が決まってないので、小学校の音楽で扱う「春の歌」を1年生の朝の歌の時に歌うことを提案したところ、「私、知ってる。」と小学校の音楽の本を持ってきて見せてくれたのがM子であった。

ちょうど、他にも何曲か同様の曲をテープに取っていたので休憩時間にかけてみると、N子やS子、話すことが苦手なK男も興味を示した。そのうち、M子は、S子を誘ってオルガンを弾き出した。4月の歌が提示されると、歌詞カードをなぞり書きするのもS子と一緒に喜んで引き受けてくれた。



オルガンを弾くM子とS子

5月の月の歌は、テレビのアニメのテーマソング「ダンダン心ひかれてく」であり、本クラス全員がほぼ抵抗なく喜んで歌える歌であった。特に、声をあまり出さないK男がかなり大きな声を出して歌ったので皆が驚いたほどであった。

6月の歌は猿岩石の「ツキ」で、流行歌が大好きなN子は張り切って歌っていた。

6月には初めての校内宿泊学習が実施された。その際の夜のレクリエーションもすぐカラオケ大会に決まった。当日は、教育実習の先生も交えて大変楽しい一時を過ごした。



一人のとりが好きな歌を歌った宿泊のカラオケ大会

7月には、全校で行う児童生徒集会でカラオケ大会が実施された。この内容も生徒の代表が相談して決定、実施したものである。中学部1年生は、相談して6月の歌の「ツキ」を歌うことにした。M子、N子、S子を中心とした歌声は、審査委員長の校長先生から「すばらしい歌唱力で賞」をいただいた。6人がそれぞれ自分なりに精一杯、全校児童、生徒、先生の前で歌

った良い機会となった。

7月の校外学習の報告発表にも歌を取り入れた。これは、各クラスの校外学習の様子を他のクラスの生徒や先生、保護者に報告するもので、1年生は用瀬の流しびなの館に見学に行ったことを発表した。日頃、自分の思いをなかなか出せないK子の一番心に残ったのは、「ひいな橋を渡ったとき、本当におひなさまの歌が聞こえたこと」ということだったので、その発表に合わせて「たのしいひなまつり」の歌を全員で歌うことを提案した。皆喜んで歌い、K子もとても満足そうだった。

1学期は、生徒を見つめ、その時その時に取り入れられる音楽を自然な形で生かしてきたと言える。そのことによって、少しは積極的に取り組めたり、友だちと一緒に楽しめたりできたのではないかと思う。

(2) 2学期の実践

クラスづくりをねらいクラス中心に学習を進めてきた1学期。中学部では2学期からはクラスの枠を解いた縦割り班で、生徒同士の関わり合い・練り合いを生かしながら学習を進めた。

そういう中で、音楽を活用することでもっと生き生きと楽しんで活動し、一人ひとりが自分らしさを出せないかと考え、帰りの会や自由時間、課題の時間の利用も試みた。

①自分の好きな曲の紹介

一人ひとりが自分らしさを出し、自分のことを友だちに知らせていく、また、友だちのことを知る一つの手段として、自分の好きな曲の紹介をし合うことを提案した。それを帰りの会でうたう歌にして中学部1年生らしい帰りの会にしたいと考えた。

担任が自分の好きな曲（どの生徒も興味を示すのではないかとされたおかあさんといっしょの中でうたわれる歌）を帰りの会で紹介し、好きな曲・みんなに聞いて欲しい曲があればテープを持ってくるよう呼びかけた。

流行歌をよく知っているN子は、さっそく姉から借りて持ってきてくれた。それを休憩時間にも聞いてもよいかと尋ねてきたので許可したところ、オルガンを弾きたいM子とどちらがするかで言い合いになり、その休憩時間は両方が使えずじまいになってしまった。その次の休憩は、給食や委員会の仕事の関係で最初にテープを聞いていたN子がM子に譲るという自然な形で双方が思いを遂げた。このように自分の好きなことだからこそ譲れなくて、ぶつかり合うということになったが、自分の思いと友だちの思いが違うことを知り、そういう時の対処の仕方を考える良い機会だったと思う。

K男もカセットテープを持ってきていた。しかし、自分から言うことはなく、捜し物のときに偶然担任が発見し、みんなでも聞いてもよいか尋ねたところ、嬉しそうにならずいたので、バス待ちの時間に紹介した。幼児番組やアニメのテープであり、皆が喜んで聞き、知っているM子やS子、S男と一緒に歌ったので、K男もとても嬉しそうであった。

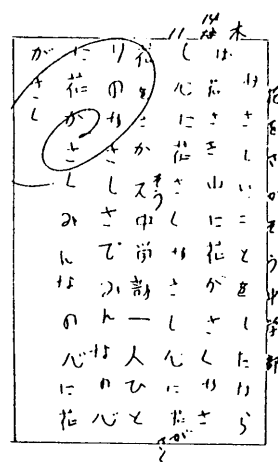
その後も、K男にテープを聞かせてもらうよう働きかける姿や自分のテープを持ってくる姿が見られる。ただ、それを帰りの会でうたう歌とするまでには至っていないので、ぜひ試みてみたい。

②課題学習での音楽の活用

本学級では、文字や言葉を発することにやや抵抗がある生徒が半数を占める。そこで少しでも意欲的に取り組めるように好きな曲の歌詞を書いたり読んだりする活動を取り入れてみた。

10月から、11月の文化祭の曲が月の歌として提示された。今年、アニメの主題歌「勇気100%」で、生徒にとって馴染みのあるもので、最初から喜んで歌っていたので、課題の時間にその歌詞を視写する活動を取り入れてみた。生徒の実態に合わせて3段階のプリントを用意し取り組んだが、皆余り抵抗なく取り組めた。

その後、文化祭の劇中にうたう歌も家庭学習として提示、ほぼ皆が視写してきていた。



課題ノートより

③文化祭での取り組み

中学部では「太鼓・傘踊り」と劇「花さき山」をした。傘踊りのきなんせ節で今年は生の歌声も入れることとし希望者を募った。本クラスではやはりM子とS子が希望し、S子が2年生のO子と二人でソロ部分を歌うことになった。劇の方でM子は希望の「あや」役になったので抵抗なく認めることができた。そして、劇の脚本作りを進める中で「あや」がまりつきをする場面が出てきたので、そこでM子が一人でまりつき歌をうたうことを提案したところ、よろこんで歌っていた。そして、休憩時間に二人でそれらの歌の練習する姿もよく見られた。また、いつもS子の癖を注意しているM子がS子の歌声がきれいだと誉める発言も聞かれた。

当日は、保護者をはじめたくさんのお客様の前で二人ともが精一杯の演技を披露し、それを認められ、満足して終わることができた。

4 反省と今後の課題

クラスづくりを進めて8か月。生徒一人ひとりの実態把握にも時間がかかり、なかなかまとまった指導はできず、目に見えるような変容はまだ認められないが、生徒を見つめ、生徒の思いや好きなこと、できることを生かしてクラスづくりを続けているところである。音楽を多用することで、生徒たちの笑顔が多く見られ、安定して、少しでも主体的に行動する場面が増えてくれればと願っている。そして、自分に自信をもち、同時に、自分と違う他人（友だち）をも受け入れられるようになっていって欲しいと考えている。



きなんせ節を歌うS子

今後は、12月のお楽しみ会、2月のお客様といっしょに楽しもうの單元などで一人ひとりの好きな活動を考えて選び、より多くの友だちと協力して活動していくこと、同時に、クラスとしても生活を楽しくし、生き生きと取り組めるようなことを計画していきたい。そして、少しでも意欲的に取り組み、生活する力をつけていけるようにしていきたい。